



答弁中の中嶋町長

公共施設の維持管理体制の構築は

費用対効果を考え計画を実施

問

須恵町では、庁舎をはじめ、学校等の教育施設、アザレアホール・オイコス・福祉センター等の文化・福祉施設、また、若杉の森運動公園などの公園施設、ならびに上下水道施設、道路・橋梁等さまざまな公共施設があります。

将来にわたって、住民の皆さんに安全性や満足を提供していくために、整備した施設

の維持管理の取り組みが必要となります。

そこで、現在の公共施設の現状を把握した資産台帳の整備、施設の点検の実施、後年度の負担を考えた維持管理計画を立ててあります。現状の取り組み、今後の取り組みについて質問します。

答 中嶋町長

公共施設の現状を把握する



松山 力弥 議員

ものとして、橋梁・ため池・道路等については、それぞれに管理台帳を備えています。公共施設、学校施設についても、資産台帳・学校施設台帳を整備しています。担当各課それぞれで、各施設について日々点検を行



西体育館



あおば会館

ったり、コンサルタントに委託して改築計画を作成するなどしてありますが、今後5年をめどに公共施設等総合管理計画を作成し、システム化する予定です。

出来るだけ費用を安く上げる方法で改築計画を策定するために、プロジェクトチームを立ち上げます。今後、費用対効果を考えながら、これからの計画を実施していきたいと思っています。

安全・安心を一番に考え、

総合計画の見直しは

総合的かつ慎重に取り組む

問

第五次須恵町総合計画は、平成23年度から32年度までの10年間のまちづくりの指針となるものです。近年、住宅地の開発などにより、第二小校区に子育て世帯が増加したり、女性の就労が増加傾向にあり

ます。総合計画では、人口推計値が平成27年2万5896人、平成32年が2万5706人と

減少予測です。目標人口は、

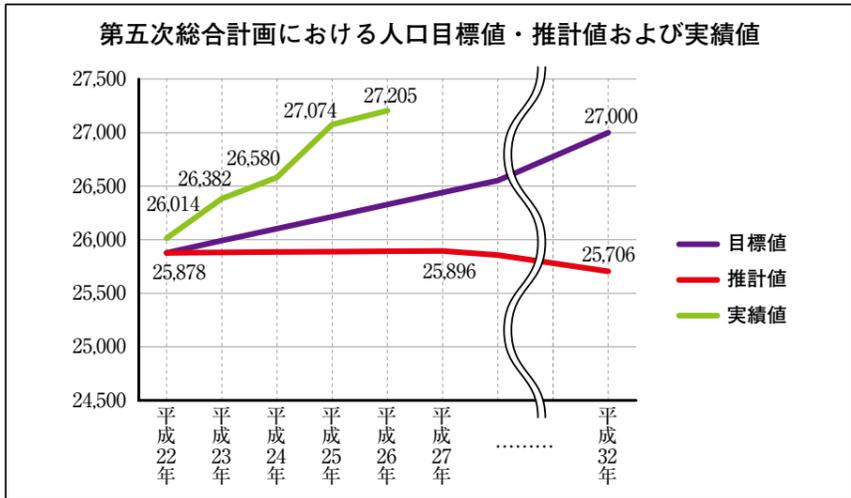
定住促進対策により、年間約100人前後増を目指し、平成32年に2万7千人に設定されています。しかし、予測不可能な人口増加などにより、第二小校区増築を実施。学童保育所・保育園待機児童対策が求められています。

これから取り組む新しいまちづくりの指針を示し、本計画が今後のまちづくりに十分活かせるよう総合計画見直しの前倒しの検討は。

答 中嶋町長

第五次総合計画は、平成24年3月議会にて承認されました。

前の第四次総合計画の10年間に、人口は年に平均83人しか増えていな



い状況でした。また、人口問題研究所の推計では、少子高齢化社会の到来とともに、平成27年度以降は全国的に減少傾向に転じるということだったため、人口推移は32年度に2万7千人になるとしていました。

しかし、本町においては九州で唯一の社会実験を行うこと、その成功を見られたことや、地理的利便性が生まれたことで企業が進出し、新しい住民が増え、人口が伸びている状況です。

須恵駅前の高層マンション建設や大小の開発計画もあるため、今後も須恵町の人口は増加していくと予測されます。

※参考 26年8月末の人口 2万7354人